

本学では、教育職員免許法施行規則第 22 条の 8 に基づき、教職課程委員会を中心に教職課程の自己点検・評価を行っています。

また、その結果を自己点検・評価報告書にまとめ、公表しています。

**【教育職員免許法施行規則第 22 条の 8】**

認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教育研究実施組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

令和4年度  
教職課程  
自己点検評価報告書

聖カタリナ大学短期大学部

令和5年3月

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価	18
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	20
V	現況基礎データ一覧	21
	令和4年度教職課程自己点検評価報告書 資料・データ等一覧	22

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名：聖カタリナ大学短期大学部保育学科
- (2) 所在地：愛媛県松山市北条 660 番地
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 105 名／学科全体 105 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）8 名／学科全体 11 名

### 2 特色

聖カタリナ大学短期大学部は、聖ドミニコ宣教修道女会の設立によるもので、その法的設置者は学校法人聖カタリナ学園である。聖カタリナ学園には本学以外に大学1校、高等学校3校、幼稚園5園があり、大学とは同敷地内にある。本学の教育理念の基礎はキリスト教的人間観であり、その建学の精神「愛と真理」は、カトリック系短期大学としての教育理念及び教育研究目的を明確に示している。

保育学科は、保育士資格を併修するカリキュラムを設定しており、三つの方針を踏まえた教育活動を行うことにより、子どもの保育に必要な専門性を修得し、将来の社会を形成する子どもたちが健全で豊かな人格となるように援助ができる教員養成を行っている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状説明〕

保育学科は、建学の精神及び教育理念に基づき、ディプロマ・ポリシー(以下 DP)を定めている。「キャンパスライフ 2022ー学生生活の手引き」(資料1-1-1)

1. キリスト教的ヒューマニズムと建学の精神「愛と真理」に基づき、誠実・高邁・奉仕の態度を身につけている。
2. 子どもの発達や保育の内容など、保育者に必要な専門知識を習得している。
3. 音楽や体育、図画工作など、保育者に必要な表現技術を身につけている。
4. 子どもや保護者の状況を的確に判断し、問題解決に向けた最善の支援策を考え出すことができる。
5. 積極的に社会と関わり、自ら学ぶ意欲を有する。

また、DPに対応したカリキュラム・ポリシー(以下 CP)を定めている。「キャンパスライフ 2022ー学生生活の手引き」(資料1-1-1)

1. 基礎教育科目では、社会人としての知識や技能を育てるための科目を編成・実施している。
2. 専門教育科目では、保育者としての知識や技能、判断力を育てるための科目を編成・実施している。
3. 実習関係科目が他の科目と効果的な学習となるように、全科目の開講時期を検討しながら編成・実施している。
4. 1年次には、教育・福祉の基礎に関する考え方や基礎的な表現技術を習得し、各種の実習に臨めるように編成・実施している。2年次には、実習経験を踏ま

え、より実践的な能力の育ちを目指した科目を編成・実施している。

保育学科は、地域や保育現場で子どもの教育や福祉に貢献できる質の高い人材の育成を目指し、そのために本学独自の宗教関係の科目と、幼稚園教諭二種免許の取得のための科目群を基本とした教育課程を編成している。加えて、保育士資格が取得できるようにしている。

本学の学生が身につけるべき学修成果は、以下の通りである。「キャンパスライフ2022－学生生活の手引き」（資料1－1－1）

1. キリスト教的ヒューマニズムと建学の精神「愛と真理」に基づき、地域や社会に貢献できる意欲・態度を身につけている。
2. 語学、スポーツ、法律、保健などについての知識と技能を習得し、それらを社会生活に役立てる態度を身につけている。
3. 教育や福祉、子どもの学習行動、保育内容などについて専門的知識を習得し、保育現場で子どもの表現活動を育てる表現技術を身につけている。
4. 子どもの発達過程に応じた計画・実践・評価ができる指導力と共に、子どもの発達及び保護者相談に対応できる能力を備えている。
5. 意欲的に学習し、社会に関わるための免許・資格を取得する。

学修成果は DP を踏まえて具体的に示され一定期間内で獲得可能であり、その獲得に向けて学期ごとにどのような科目を受講し、学生自身が何をどのように学ぶのかを「カリキュラムガイド2022」（資料1－1－2）で見通しながら進めることができるようにしている。学修成果の査定方法については機関レベル、教育課程レベル、科目レベルごとに方法が示されており、教育課程レベルでは、GPA 分布状況、単位修得状況、学位取得率、免許・資格取得率を把握し評価に活用している。

### 【長所・特色】

保育学科の教育目的・目標は、本学の建学の精神を基盤とし、子どもの健全で豊かな人格形成を援助できる人材を養成することである。保育者養成の教育課程の専

門性に沿って、子どもの教育や福祉に従事できる「愛と真理」の理念を身につけた社会人の育成に努めている。学科の社会的使命は、学生が短期大学士として社会的・職業的に自立するために必要な能力を培うことにあり、有能かつ実践力のある幼稚園教諭、保育士として保育現場で活躍できる人材の育成にある。本学は三つのポリシーに基づき、学修成果を軸とした教育活動を実践している。大学全体の教育活動は、建学の精神に基づく学習支援や生活支援、就職支援の多岐に渡っている。授業外で行われる大学全体の学校行事（聖母マリアに由来する「母をたたえる日」、「理事長講話」「大学祭ミサ」「クリスマスミサ」等）は教養教育の一端を担い、教育課程とともに、学修成果獲得の下支えとなっており、学生の満足度の高さにもつながっている。さらに各種学外実習、学科独自の行事であるカタリナウェルカムキャンパスや実習合同報告会、保健講話、そして学外ボランティア活動など見通しをもって教育活動を行っている。このような大学の組織体制が学科の教育活動を支え、学科独自の教育活動が学生の学修成果の達成を可能にしている。

### 【取り組み上の課題】

卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針（三つの方針）を2014（平成26）年に一体的に策定した。卒業認定・学位授与の方針は学修成果に対応しているものの、今後は学科の卒業認定・学位授与の方針にはそれらの身に付けるべき能力の獲得をもって学位を授与するなどの文言を盛り込み、学位授与の基本方針として学内で共通理解を図るとともに、学外に周知することが望まれる。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：キャンパスライフ2022－学生生活の手引き－p3
- ・資料1-1-2：保育学科カリキュラムガイド2022

## 基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状説明〕

聖カタリナ大学短期大学部は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および実務家教員を配置している。また、事務局学生部教務課では、学科の教育課程および教職課程を統括的に管理する学科担当職員を置き、クラス担任制による個々の学生のニーズに対応する学修支援体制を構えるなど、適切に教職課程を運営している。

教職課程の運営に関しては、併設大学との連携の利点を生かし全学組織としての教学マネジメント委員会（資料 1－2－1）、教務委員会（資料 1－2－2）、FD 委員会（資料 1－2－3）が設置されており、必要に応じて学科内教務委員会、FD 委員会とも密接な連携をしながら、教職課程の適正な運営を期すと同時に学科の教育課程全般における教職課程の位置づけを常に点検し、DP に基づく人材養成を保持する体制を構築している。教育実習においては、実習委員の会および科目担当者が学生の指導や教育委員会等連携先との調整等を担っている。

教職課程教育を行う上での施設・設備については、講義室、絵画デザイン用教室・木工用教室、キーボード室、リズム教室等を有し、講義室には液晶プロジェクター、スクリーン、DVD プレイヤー等を完備しており各種メディアに対応できるようにになっている。保育学科棟には個人ピアノ練習室を 48 室完備し、学生のピアノ自習室として活用している。情報処理関係施設としてはコンピューター室 2 室（内 1 室は学生自習用）及び附属図書館に自習用コンピューターを設置している。図書館本館の蔵書数は 2020（令和 2）年度末で 100,496 冊、保育学科に関する参考図書や関連図書については、学科関連コーナー及び絵本コーナーを整備している。図書館の設備として、閲覧座席数が 172 席、図書館専用の無線 LAN を設置しており、デスクトップ型パソコン 19 台、OPAC 用パソコン 3 台、タブレット型パソコン 25 台、学生専用カラー複合機 1 台に接続できるように整

備している。また、図書館内の LC コーナー等には可動式の机と椅子を配置しているほか、スクリーン2台、天吊り型プロジェクター1台を含むプロジェクター3台や壁面ホワイトボード等も設置しており、学生が自由に利活用できる環境を整備している。体育館等屋内運動施設は、新旧体育館2棟と多目的屋内運動場（デポルテ）を有している。ICT 教育環境については、学内の有線 LAN、無線 LAN（Wi-Fi）の利用範囲を拡大し、学内の多くの場所で利用できるようになっている。さらに、有線 LAN、無線 LAN（Wi-Fi）の整備のない教室等では、モバイル Wi-Fi ルーターを導入しインターネットに接続が可能になっている。学生への情報提供は、パソコン、スマートフォン等から確認できる学生支援システム（ユニバーサル・パスポート）により行っており、教学システムでは授業資料の配信や課題の提示・受取、小テストの実施等がシステムを通して行えるようになっている。

教職課程の質的向上のために、科目レベルでは毎学期、学生による「授業改善アンケート」を実施し科目ごとに集計している。FD 委員会は常勤教員に毎回、結果に基づく改善策の提出を求めている。また、非常勤講師にも結果を知らせ、気になる点は改善を求めている。教育課程レベルとして、2017（平成 29）年度入学生より GPA 制度による個別成績の査定方法を導入し、学生ごとの数値の把握と併せて学科の1・2年生ごとの GPA 分布状況を把握している。また、2022（令和 4）年度から学習ポートフォリオの運用を開始している。機関レベルとして、毎年「学生生活満足度調査」を在學生と卒業時の学生に実施し、教育課程や教員への意見、大学の設備への要望などを把握し、学修成果獲得への改善策に活かしている。教職員の能力開発の推進、職員の研修、FD 委員会との連携、教員の教育・研究・社会活動に対する支援などを取り扱う SD 委員会は、2021（令和 3）年度より SD 委員に教員2名（大学教員1名、短大教員1名）を加え、SD の趣旨に合致すべく取り組みを展開している（資料1-2-4）。

卒業生の就職率や職種別割合、主な就職先については大学ホームページにおい

て情報公開を行っている。

本学は、2022（令和4）年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価において「適格」と認められ、今後も教職課程の在り方によりよい改善を図ることを目的とした自己点検評価に取り組む。

### 〔長所・特色〕

保育学科での学習支援は、クラス担任制に加え担当教員を配置した「サポートルーム」を設けており、学習上の悩み等について相談・支援を行っている。また、保育学科棟には「個人ピアノ練習室」が48室完備されており、学生の自習室として大いに活用されている。教育支援では、教員が授業で活用するほか、保育現場に就職した卒業生の保育活動を支援するため「おもちゃライブラリー」が設置されており、閲覧や貸し出しも可能になっている。また、同敷地内にある附属幼稚園や、松山市地域子育て支援拠点事業（ひろば型）として、子育て中の親子対象の「カタリナ子育て支援ひろばくぼけっと」も整備しており、地域の子育て支援と学生の保育体験の獲得に貢献している。

### 〔取り組み上の課題〕

学生の学習支援に用いる教学システムについては、2019（令和元）年度に導入した学生支援システム（ユニバーサル・パスポート）の機能を用いて、学生と教員との間で授業資料の配信や課題の提示・受取、小テストの実施等が行えるようになっているが、今後も学習支援への有効な活用が必要である。

### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-2-1：聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部教学マネジメント委員会規程
- ・資料1-2-2：聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部教務委員会規程

- ・資料 1 - 2 - 3 : 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 **FD** 委員会規程
- ・資料 1 - 2 - 4 : 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 **SD** 委員会規程

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状説明〕

本学科の入学受け入れ方針であるアドミッション・ポリシー（以下AP）は次のとおりである。

1. 将来、保育士・幼稚園教諭として働くことに熱意と意欲を持つ人。
2. 相手の立場を尊重し、積極的に人と関わろうとする人。
3. 子どもや他人の幸福に配慮し、その実現のために尽力しようとする人。
4. これまでの学業に積極的に取り組み、学び続ける意欲と向上心を持つ人。

このAPは、受験生に配布する「入学者選抜要項」（資2-1-1）のトップページに明確に記載するとともに、大学ホームページの大学概要（資料2-1-2）に公開している。また、大学説明会や高校内ガイダンス、オープンキャンパス等の機会を捉えて丁寧な説明を行っている。入学者選抜の方法はAPに対応しており、特に受験生のおよそ9割を占める総合型選抜及び学校推薦型選抜においては、面接や自己推薦型プレゼンテーション、口頭試問を通じて資質能力の把握に努めている。

合格者には入学前教育として課題を課し、入学後に関連する授業の中で取り入れ、担当教員が個々へフィードバックを行い、学修に対する意欲の維持・向上を図り大学教育への円滑な接続を図っている。入学後は新入生ガイダンスの中で、幼稚園教諭免許取得を目指した履修方法も含め説明を行っている。

ほとんどの学生が免許を取得し、幼稚園・認定こども園・保育所等の専門職として就職している状況を踏まえると、APが免許取得を目指す学生の履修を開始・継続するための基準として適切な人材を受け入れていると言える。さらに、ディプロマ・ポリシーに向けてカリキュラム・ポリシー（資料2-1-3）の基に、適切な規模の履修学生を受け入れ育成が行われていると言える。

「履修カルテ」（資料2-1-4）は各学期が終了した後で、学生が修得した単位数や振り返りを書き込むこととしている。2年次後期の「保育・教職実践演習（幼

稚園)」において「履修カルテ」を用い、振り返り省察を深めるよう指導している。

### 〔長所・特色〕

小規模な単科の短大であるため、資格取得を目指す学生一人ひとりに合わせた、入学前から入学後と一貫した教育と支援が提供されている。

学生確保に向けた取り組みとしてオープンキャンパスは重要な募集活動と位置づけ、在学生と触れ合い入学後のイメージを抱くことができるよう学科紹介や模擬授業、体験コーナーを工夫し実施している。入学者の中で苦手意識の多いピアノについては、オープンキャンパス終了後に個別相談の時間を確保し充実を図っている(資料2-1-5)。

入試選抜の中で、特に総合型選抜では、受験生が今まで取り組んできたことをプレゼンテーションすることで、能力や適性、意欲や目的意識を総合的に評価し受け入れている。従来より、入学前教育として合格者に対し、課題学習や希望者に対するピアノ個人レッスンを実施していた。加えて、2021(令和3)年度より学習の動機づけと意識の向上を図るために入学前セミナー「スプリングセミナー」(資料2-1-6)を導入した。さらに入学後に、「新入生アンケート」(資料2-1-7)を実施することで、学生の受入れや支援に関する見直しを図っている。

専門職者として適切な学生の育成のために一般的な講義に加え、アクティブ・ラーニングを積極的に導入している。また、より実践的な技術を高めるため指導案の作成と模擬授業を多く取り入れている。実習指導においては、大学内にある附属幼稚園を見学し、現場に即した指導を得られる機会を設け、意識を高める工夫をしている。

### 〔取り組み上の課題〕

1. 令和4年度に定員数を100名から80名に変更したが、定員割れの状態が続く  
学生数は減少傾向にある。保育現場では人材不足により就職希望者を求めている現

状の中で、定員充足に向けた更なる取り組みが必要である。

2. 毎年数名であるが、実習を断念し資格取得ができない学生がいる。学科内で授業欠席状況を把握し、クラス担任を中心とした支援を行っているが、早い段階から個々の学生に寄り添った指導が必要である。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：入学者選抜要項
- ・資料2-1-2：<https://www.catherine.ac.jp/> 大学概要
- ・資料2-1-3：キャンパスライフ 2022 P3
- ・資料2-1-4：保育学科履修カルテ 2022
- ・資料2-1-5：オープンキャンパス実施要項
- ・資料2-1-6：入学前セミナー（スプリングセミナー）実施要項
- ・資料2-1-7：新入生アンケート

## 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

学生へのキャリア支援として、専任教員から任命された2名の就職委員及び、個別の学生の生活支援を行う担任教員や学生生活委員、教務委員が連携をしながら取り組んでいる。全学組織である就職課では、進路や採用試験等の個別の要望に丁寧に対応する体制が整えられている。就職支援のための施設整備として、就職課には求人情報のファイルや、学生が自由に使えるパソコンなどを設置しており、Webでの就職情報入手や書類の作成、Webテストの実施等が可能となっている。学生への支援として、就職委員と就職課職員との連携のもと個々の学生から希望や相談を受け、求人先の業務内容等も紹介し、応募先の指導をしている。また、卒業生の講話により専門職への就職意欲の啓発を図ったり、ボランティア活動を通して地域の方

とふれあう機会を積極的に設けたりするなど、キャリアへの動機づけの向上につながる取り組みを行っている。

### 〔長所・特色〕

本学科は、全学生が免許を取得することをめざし、担任教員と実習担当教員が中心となって、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握し支援している。学年全体のキャリア支援として、1年次後期から2年次前期までの19回にわたる就職ガイダンス（資料2-2-1）及び就職セミナーに加え、中予地区私立幼稚園合同就職説明会を継続的に実施している。また、公務員試験対策講座や就職1次試験対策講座などを開講する他、希望する学生には面接試験に備えて模擬面接試験を実施するなど、学生一人ひとりが適正な進路を選択できるような対策を行っている。

### 〔取り組み上の課題〕

#### 1 教職に就くためのキャリア支援

学生の就職先として、実習の影響により選択している学生がみられる。広い視野で就職先が決められるような講座等の充実を図ることが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：就職ガイダンス資料

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状説明〕

本学の教職課程の編成は、ディプロマ・ポリシー(以下 DP) (資料3-1-1)に基づくカリキュラム・ポリシー(以下 CP) (資料3-1-2) にしたがって適切に実施している。本学の教職課程は、幼稚園教諭二種免許状の取得を目的としており、1年次後期から2年次前期における教育実習に合わせた科目配列を行っている。CPの自己点検・評価は、各年度の入学生の教育課程表にしたがった履修ガイダンスに始まり、各科目の授業計画の実施の後、授業改善アンケートの実施および結果、学修成果別成績評価、GPA 分布図、免許の取得率、卒業率などの検証用データの分析によって教職課程の課題を発見し、改善する PDCA サイクルによって実施している。

現在の教職課程は、2019(令和元)年度の教職課程(再課程)によって再編成した。本学は、短期大学士(64単位)を基本に幼稚園教諭二種免許状(64単位)に保育士資格を取得できる教育課程を編成している。したがって、幼稚園教諭に関する科目と保育士養成に関する科目との整合性を踏まえた教育課程となっている。

再課程の完成年度以降も、学修成果の検証によって各科目の開講時期や各科目の到達目標の検討、シラバスの検討を行い、現在2022(令和4)年度の入学生(資料3-1-3)に至っている。2021(令和3)年度入学生よりあらたに児童厚生指導員(二級)の取得ができるようにした。毎年度、幼稚園教諭二種免許状の取得率は90%以上であり、教職課程の編成・実施状況は極めて良好である。

##### 〔長所・特色〕

本学の教育課程の長所は、2年間で2つの国家資格を取得できるように卒業必修科目と免許・資格関係科目を整合させ、効率的に編成していることである。本学は

キリスト教に基づく建学の精神「愛と真理」に沿って社会に貢献できる人材の養成に努めてきた。保育者養成は、本学の開学当初からの教育目的であり、社会や保育現場のニーズに合った教育課程をその都度、編成している。本学では、保育職の専門性の育成と豊かな人間性の育成を目的とした教育課程の編成・実施を特色としている。

また、教育課程の特色は、2年間で2つの国家資格を取得できるように、教育実習や保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの時期に合わせてそれぞれの事前・事後指導の科目を実施し、実習科目の時期に合わせて他の関係科目を編成していることである。特に、専門科目は実習前後の基礎的学習や振り返り学習となるよう編成している。学生には、2年間の履修計画を主体的に立案できるよう、「カリキュラムガイド」（資料3-1-4）を1年次前期から配布し、各学期の履修科目を見通せるようにしている。毎学期の学修成果は、「学修ポートフォリオ」によって適切に可視化できるようにしている。また、学生は毎学期の「履修カルテ」（自己評価）を作成し、履修状況の振り返りを行っている。このように2年間の在籍期間において学生が主体的に、意欲的に学業を修めることができるように学習支援を行っている点が特色である。

### 【取り組み上の課題】

教育課程の編成・実施上の課題は、毎年、学生の学修成果に関する検証用データに基づき科目開講時期の適切さ、開講科目（基礎教育科目・専門科目）の適切さについて検討することである。教育課程の修正・変更は、単年度の検証用データの分析・結果ではなく、ある程度の年数が必要である。次年度の教育課程に関しては大幅な修正・変更はないが、本学の学生募集上の課題により令和6年度の教育課程に関する修正・変更が課題である。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：DPキャンパスライフP3（資料1-1-1再掲）

- ・資料3-1-2：CPキャンパスライフP3（資料1-1-1再掲）
- ・資料3-1-3：2022年度入学生教育課程表
- ・資料3-1-4：2022年度カリキュラムガイド

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

#### 〔現状説明〕

本学は、建学の精神、教育理念、教育研究目的をふまえ、その成果を広く社会に還元することを目的として、社会連携・社会貢献活動を推進するために「地域連携推進室」（資料3-2-1）を設置している。その中で、保育者養成を使命としている保育学科では、学生及び教職員がさまざまな地域活動に主体的・積極的に参加することを通して、地域社会の発展に貢献できる人材を養成するとともに、学生の多様な学びの機会を確保するよう努めており、地域とのつながりを大切にしている。

具体的には、幼稚園、保育所、認定こども園をはじめとする教育機関や施設、行政、その他の団体等の地域イベントなどで学生のボランティア活動を積極的に行っており、社会性の獲得を含む総合力の強化に努めている。これらの体験活動は、教育活動の一環として取り組んでおり、ポートフォリオや履修カルテにおいて活動ごとに振り返りを記録し、実践力や実践現場についての知識・理解を深める学びとなっている。

さまざまなボランティア活動は、2019（令和元）年度では派遣数67件、派遣人数延べ410人であった。コロナ禍により2年間は減少したものの、今年度は社会全体の変化に伴い少しずつ参加人数が増えている。

教育実習については、愛媛県内の養成校が加盟する愛媛県内幼稚園教育実習協議会において定期的な協議を開催し、平等で円滑な受け入れ先の配当や教員養成における現状や課題の共有・意見交換を行い、連携協力の体制を整えている。これに加えて、教員による実習中の巡回指導や実習担当者との面談、実習懇談会等を通して、

実習の充実を図っている。実習後には、「1・2年生合同実習報告会」を開催し、2年生から実習の振り返りを通して学んだことや気づいたこと、感想等を1年生に伝え、1年生の実習の不安をやわらげ、意欲を高める機会としている。

### 〔長所・特色〕

学内外でのボランティアを中心とした体験学習では、「子ども」を真ん中に、そのご家族や地域社会に関わる行事に積極的に参加し、子どもやその保護者との関わりや、その場に参加している人同士の交流づくりなど、学生が地域の中で学ぶ機会を設けている。

体験学習の内、特に大学祭での「子どもの遊びコーナー」は地域の子どもたちやその保護者が大勢参加し、楽しい催しとなっている。また、1・2年生合同で企画・運営をし、2年生の主体的活動により1年生にとってもよい学びの場となっている。さらに、同敷地内にある附属幼稚園や、松山市地域子育て支援拠点事業(ひろば型)として設置している「カタリナ子育て支援ひろばくぼけっと」の親子を対象にしたイベントを開催し、それぞれの子どもに合った関わり方を経験する良い機会となっている。その他、学外活動での教育機関や施設、行政、その他の団体等の地域イベントなど、学生が主体となって企画・運営し、子どもと共に活動しながら教育実践現場の理解や実践的指導力を育むことができている。

### 〔取り組み上の課題〕

地域の子どもの実態や幼稚園教育の現場を理解するため、幼稚園教育実習だけでは獲得しきれないさまざまな体験学習を奨励し、さらに、現場の園長より教育実践の最新の情報についての講話を頂く機会や、地域幼稚園の教職に就いている卒業生から話を聞く機会を設けているが、より多様な教育実践および最新の情報を得るため、実習園や行政等と幅広く連携を図ることも視野に入れていく必要がある。また、幼稚園教諭免許状の特性に応じた実践的指導力を養成する取り組みをさらに促進

することが課題である。

**<根拠となる資料・データ等>**

- ・資料3-2-1：聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部地域連携推進室規程

### Ⅲ. 総合評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協同的な取り組み」について、本学は、保育学科単科から成り立っており、教育目的・目標は、本学の建学の精神を基盤とし、子どもの健全で豊かな人格形成を援助できる人材を養成することである。保育者養成の教育課程の専門性に沿って、子どもの教育や福祉に従事できる「愛と真理」の理念を身につけた社会人の育成に努めている。学科の社会的使命は、学生が短期大学士として社会的・職業的に自立するために必要な能力を培うことにあり、有能かつ実践力のある幼稚園教諭、保育士として保育現場で活躍できる人材の育成にある。この保育者像にむけて「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「学修成果」を定めて公開し、社会や学生に周知している。

目指す教育の実現に向けては、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築し目標・目的を共有し、FDやSDを活用し、研鑽を積んでいる。

課題は、学修成果の可視化について研究を進めることである。また、ICT教育環境については、アクティブ・ラーニングに対応した教室を増やすなど、さらに充実した環境を整えることを目指す。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」については、「入学者受け入れの方針」を定め、ホームページや入学者選抜要項に掲載し、大学説明会等で広く周知している。

「入学者受け入れの方針」は、「教育課程編成・実施の方針」及び「卒業認定・学位授与の方針」に対応しており、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始し、当該教職課程に即した適切な規模の学生を受け入れている。入学後は、「履修カルテ」を活用し、学生の適性或資質に応じた教職指導を行っている。

教職へのキャリア支援については、教職員からなる委員会組織と学科教員が連携し、アンケート実施などを通して、学生のニーズや適性を把握し、適切なキャリア

支援を組織的に行っている。就職ガイダンスを実施し、加えて、私立幼稚園教諭による合同就職説明会や公務員試験対策等を継続的に行っている。就職ガイダンスでは、卒業生を講師として招くなど、就職先との連携を図り、学生の教職に就くことへの意欲を高めている。

課題は、入学生の確保と、広い視野から就職先を決定できるよう、講座等の充実をはかることである。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」については、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。本学の教職課程は幼稚園教諭2種免許の取得を目的としており、教育実習に合わせた科目配列とし、整合性を保ちつつ、保育士資格を取得できる教育課程を編成している。シラバス作成の際には、今日の学校教育に対応すべく、アクティブ・ラーニングや、ICT機器を活用するよう教員に周知している。また、各科目の学修内容や評価方向はシラバスで明確に示している。学生には2年間の履修計画を主体的に立案できるよう「カリキュラムガイド」を配布し、学修ポートフォリオによって、自らの学修成果の可視化ができるようにしている。2年次後期の「保育・教職実践演習（幼稚園）」には履修カルテを活用している。

本学は、「地域連携推進室」を設置している。学生は教職員と共に、幼稚園、保育所、認定こども園をはじめとする教育機関や施設、行政、その他の団体等の地域イベントなどでボランティア活動を積極的に行い、社会性の獲得を含む総合力の強化に努め、活動後にはポートフォリオや履修カルテにおいて活動ごとに振り返りを記録し、実践力や実践現場についての知識・理解を深めている。

学内には実習委員の会があり連携して実習に関する取り決めを行い、年に一回、実習園との実習懇談会を開催し、実習園との連携の強化に努めている。また、愛媛県内の養成校が加盟する愛媛県内幼稚園教育実習協議会において定期的な協議を開催し、養成校間の連携協力の体制を整えている。実習の際には実習担当者のリーダーシップのもと全教員が、巡回指導を行うなど協働の体制が整っている。

幼稚園教諭免許状の特性に応じた実践的指導力を養成する取り組みや現代社会のニーズに応えた養成を促進することが課題である。

#### IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

聖カタリナ大学短期大学部保育学科のみの単科で構成されているため、学部学科間を結びつける教職課程センターのような組織は設けていない。

教職課程自己点検評価の実施、報告書作成については、学科長、学生部長、入試募集委員会、教務委員会、就職委員会の長が構成員となり、以下のプロセスで行う。

##### 第1プロセス

保育学科会議において教職課程自己点検報告書作成について合意を得る。

##### 第2プロセス

各構成員は、各委員会において担当基準領域についての自己点検評価を実施する。

##### 第3プロセス

各構成員は3つの基準領域ごとに報告書を作成し、学科長に提出する。

##### 第4プロセス

学科長は各構成員と調整を行いながら報告書をまとめる。

##### 第5プロセス

学科長は、報告書を大学評価委員会（短大）に提出し、情報公開の承認を得る。

##### 第6プロセス

学科長は、教職課程自己点検報告書をホームページで公開することについて教授会で報告する。

##### 第7プロセス

自己点検評価活動によって確認した課題について、改善・向上につなげるため次年度に向けた対策を立案する。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 聖カタリナ学園					
大学・学部名 聖カタリナ大学短期大学部					
学科・コース名（必要な場合） 保育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					81名
② ①のうち、就職者数  (企業、公務員等を含む)					73名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数  (複数免許状取得者も1と数える)					74名
④ ②のうち、教職に就いた者の数  (正規採用+臨時的任用の合計数)					45名
④のうち、正規採用者数					43名
④のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ( )
教員数	5	1	3	2	
相談員・支援員など専門職員数					

令和4年度教職課程自己点検評価報告書 資料・データ等一覧

基準領域	資料
1-1	1 キャンパスライフ 2022-学生生活の手引き p 3
1-1	2 保育学科カリキュラムガイド 2022
1-2	1 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部教学マネジメント委員会規程
1-2	2 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部教務委員会規程
1-2	3 聖カタリナ大学短期大学部 FD 委員会規程
1-2	4 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 SD 委員会規程
2-1	1 入学者選抜要項（アドミッションポリシー）
2-1	2 HP 聖カタリナ大学・聖カタリナ短期大学部大学概要 アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針） <a href="https://www.catherine.ac.jp/about/admission">https://www.catherine.ac.jp/about/admission</a> カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針・実施方針） <a href="https://www.catherine.ac.jp/about/admission">https://www.catherine.ac.jp/about/admission</a> ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針） <a href="https://www.catherine.ac.jp/about/admission">https://www.catherine.ac.jp/about/admission</a> 学習成果 <a href="https://www.catherine.ac.jp/about/admission">https://www.catherine.ac.jp/about/admission</a>
2-1	3 キャンパスライフ p 3 (1-1-1 再掲)
2-1	4 履修カルテ I（2年後期）
2-1	5 オープンキャンパス実施要項
2-1	6 スプリングセミナー実施要項
2-2	1 就職ガイダンス
3-1	1 キャンパスライフ p 3（1-1-1 再掲）
3-1	2 キャンパスライフ p 3（1-1-1 再掲）
3-1	3 2022年度入学生教育課程表
3-1	4 2022年度カリキュラムガイド（1-1-2 再掲）
3-2	1 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部地域連携推進室規程